

学生の携帯電話・パソコン利用状況について

Use Situations of Mobile Phones and Computers among Students in KWC

有馬 利加子
Rikako Arima

鹿児島女子短期大学

本論は、現在、本学ホームページへのアクセス、また、導入されている「学習管理システム：LMS (Moodle)」に搭載された携帯電話利用機能に関連して使用している学生の携帯電話、さらに、学生所有・貸与パソコンにおける利用方法・内容（ネットワーク関連）に関して、鹿児島女子短期大学（KWC）教養学科学生の利用状況を調査し、その結果をまとめ、報告したものであり、パソコン利用以外に、教育における ICT ツール（LMS, e-Portfolio, e-learning 等）として、現在、学生の必携ツールである携帯電話の可能性について考えている。

キーワード：LMS, Moodle, 携帯電話, フィーチャーフォン, スマートフォン

1. はじめに

本学に導入されているオープンソースの e ラーニングシステム「Moodle」において、鹿児島大学で開発された「Moodle-Lite」¹⁾ の導入により、2010年度前期から携帯電話による「お知らせ」「フォーラム」「オンライン課題」「小テスト」「フィードバック」「出席」各機能への一部アクセスが可能となり、学生自身が所有する携帯電話（スマートフォン）を利用している。そのため、2010年度より毎年調査を実施し、その結果を報告しているが、今回、さらに詳細に、ネットワーク関係を中心として、教養学科学生の携帯電話利用、及びパソコン利用方法・内容を調査し、外部機関の調査結果と併せて検証することで、今後の ICT 活用の情報端末としての可能性・方向性について考えていきたい。

2. 学生の携帯電話利用について

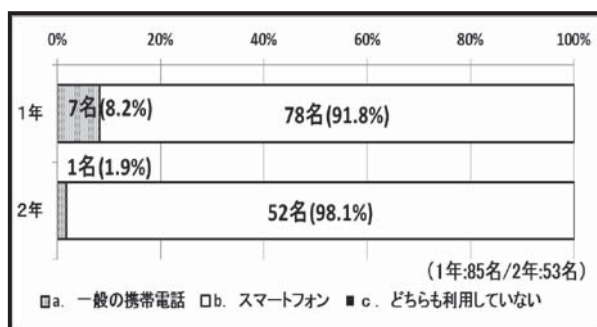
2-1. 携帯電話所有状況

2011年度調査時、[1年生：回答者58名中9名（15.5%）、2年生：回答者57名中10名（17.5%）]であったスマートフォンの割合は、2012年度 [1年生：回答者55名中45名（81.8%）、2年生：回答者50名中31名（62%）]と飛躍的な増加を示していたが、2013年度 [1年生：回答者85名中78名（91.8%）、2年生：回答者53名中52名（98.1%）]となっている。

学生全員、携帯電話を所持しているが、一般の携帯電話の割合は激減し、2013年度の2年生において、ほとんどがスマートフォンに変更している。1年生においては、入学当初 [回答者89名中、一般の携帯電話16名（18%）、スマー

トフォン73名（82%）]であった。[図1]

現在の教養学科1年生が高校3年生の時（平成24年9月）に実施されている「鹿児島県平成24年度携帯電話・インターネット利用実態調査」（鹿児島県教育庁）²⁾ 結果によると、高等学校での携帯所持率は94.7%であり、その中でスマートフォンを所持している割合は、48%と報告されている。また、携帯電話利用において、高校生になると急激に自分専用の携帯電話利用が増加しており、さらに、自分専用のスマートフォンを所有している高校生の割合は、高校2年生：20%台、高校3年生：40%であるが、高校1年生の割合が一番高く70%台となっている。



[図1：携帯電話所有状況]

平成24年11月に実施、平成25年3月に発表された「平成24年度青少年のインターネット利用環境実態調査」（内閣府）³⁾ によると、高校生の携帯電話所有率は98.1%、その中でスマートフォン所有率は55.9%と報告されている。

（学生の所有する一般の携帯電話は、通話を基本とするベーシックフォンよりも、カメラ機能等の付加機能を多く

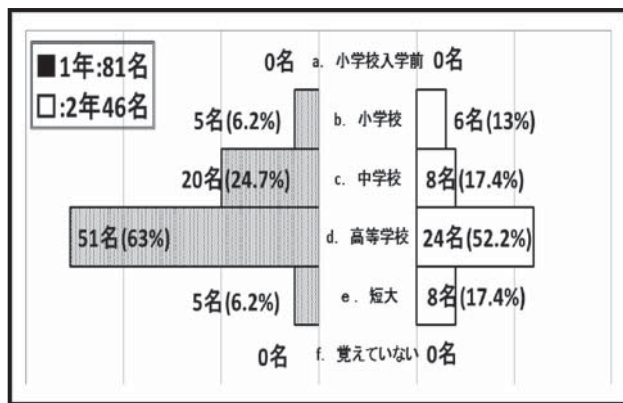
搭載する携帯電話であるため、これ以降は、フィーチャーフォン (feature phone)⁴⁾ と記載する.)

2-2. 携帯電話所有開始年齢

携帯電話を持ち始めた年齢をみると、1年生5名 (6.2%)、2年生6名 (13%) の学生が、小学校から持ち始めている。

1年生、2年生ともに、過半数の学生は、高校生から持ち始めているが、本学入学後はじめて、携帯電話を手に入れている学生 (1年生5名/2年生8名) がいることもわかる。[図2]

前掲「平成24年度青少年のインターネット利用環境実態調査」³⁾ によると、女子高校生では、小学校 (30.6%)、中学校 (36.6%)、高校 (31.9%) から持ち始めている。比較すると、現在の本学教養学科学学生は、持ち始めた時期がやや遅い。

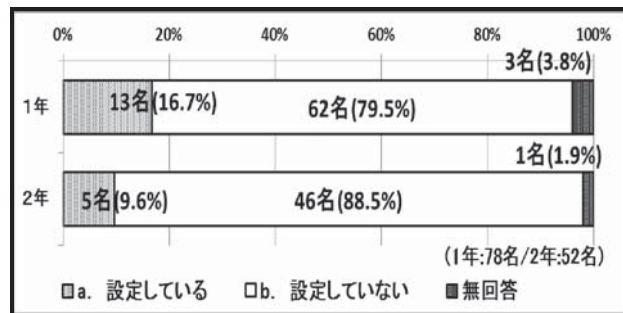


[図2：携帯電話所有開始年齢]

2-3. 携帯電話におけるフィルタリング利用

[2-1] でフィーチャーフォンを持っている1年生 (7名)、2年生 (1名) は全員フィルタリング⁵⁾ を設定している。スマートフォン所有者でフィルタリングを設定している学生は、1年生13名 (16.7%)、2年生5名 (9.6%) にとどまっている。[図3]

前掲「鹿児島県平成24年度携帯電話・インターネット利用実態調査」³⁾ によると、フィルタリング設定率は、高校生で61.6%、その中でスマートフォンは50.1%であり、「平



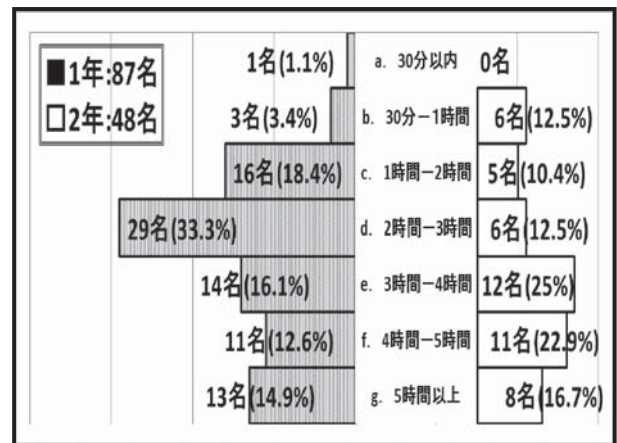
[図3：フィルタリング設定状況 (スマートフォン)]

成24年度青少年のインターネット利用環境実態調査」³⁾ によると、女子高校生では46.8%が設定していた。「フィルタリング設定」推奨 (18歳未満) 年齢でなくなる本学教養学科学学生は、フィルタリング設定率が低くなっている。

2-4. 携帯電話使用時間 (1日)

学生が1日に携帯電話を使用している時間で一番多いのは、1年生：2-3時間、2年生：3-4時間である。1年生の4割、2年生の5割以上の学生が、1日3時間以上利用しており、5時間以上の利用者 [1年生13名 (14.9%)、2年生8名 (16.7%)] も存在している。[図4]

2012年度の調査 (ゲームを含めたネットサービス利用) では、5時間以上利用していたのは、[1年生：回答者50名中5名 (10%) / 2年生：回答者48名中3名 (6.3%)] であり、1年生、2年生ともに1時間未満が約3割であった。



[図4：携帯電話使用時間]

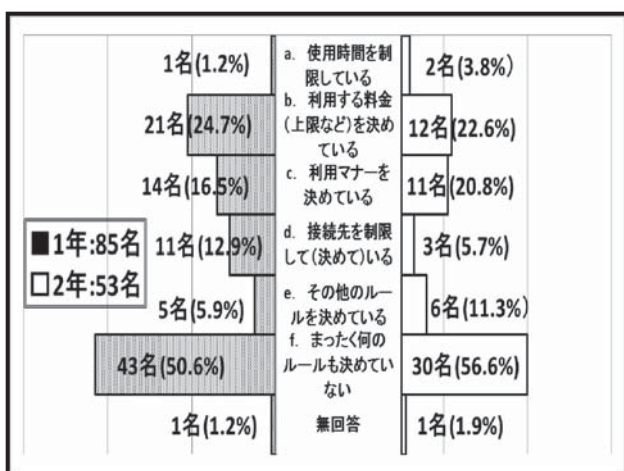
総務省・情報通信政策研究所「青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査」(平成25年6月)⁶⁾ によると、生活状況別の分類において、大学生では、「朝起きてから家を出るまで (13.2分)」「通学中 (17.6分)」「学校 (54.4分)」「放課後帰宅まで (26.7分)」「帰宅して夜寝るまで (75.2分)」の合計187.2分、携帯電話を利用しており、大学生の利用がピークであると報告されている。

また、スマートフォンの利用者の方が、フィーチャーフォン利用者よりも利用時間が長くなる傾向があり、後述の [2-6：携帯電話利用内容] と関連するが、スマートフォン利用者の68.7%が「ネット利用時間」が長くなり、64.5%が「動画視聴時間」が長くなったと報告している。逆に、生活時間の変化で、短くなったと報告されている項目では、大学生では、「テレビを見る時間 (30.9%)」「睡眠時間 (22.1%)」「本を読む時間 (20.4%)」、「勉強をする時間 (17.3%)」が挙げられている。2013年度本学調査でも過半数が3時間以上であり、「青少年のインターネット利用と

依存傾向に関する調査⁶⁾の平均時間と類似しているため、本学教養学科学生においても、前述の調査報告のように、生活時間に変化を起こしている可能性がある。

2-5. 携帯電話使用ルール（規則）

携帯電話使用にあたって、1年生、2年生ともに、全くルールを決めずに使用している学生が過半数であり、使用時間を制限している学生は、1年生1名、2年生2名のみである。また、ルールを設定している学生の中で多いのは、「利用料金の設定」である。[図5]



[図5：携帯電話使用ルール（複数回答）]

前掲「鹿児島県平成24年度携帯電話・インターネット利用実態調査²⁾」結果によると、高校生の時には、「使用時間の制限 (61.3%)」「毎月の料金の制限 (30.1%)」「利用マナーを決めている (36.4%)」等のルールがあったことが報告されている。本学入学後、教養学科学生は、その使用ルール（規則）を緩やかにしている可能性もある。

2-6. 携帯電話利用内容

学生の携帯電話利用内容を見てみると、設定した設問項目の中では、1年生 (77.8%)、2年生 (91.3%) が「LINE」(調査時小文字で記載) を利用しており、メール利用1年生 (50.6%)、2年生 (78.3%) を上回っている。2012年度調査においては、[1年生：回答者50名中34名 (68%)、2年生：回答者48名中33名 (68.8%)] が「LINE」を利用していたが、2012年度1年生であった現2年生は、現在そのほとんどの学生が利用していることになる。2年生における「Facebook」利用は、2012年度1年生時 (52%) と変化がなく、やはり約5割の学生が利用している。今回の「SNS」項目は「Twitter」として調査しているが、2年生の半数が利用しており、2012年度の1年生時 (48%) と、「Facebook」同様に変化は見られない。



[図6：携帯電話利用内容（複数回答）]

音楽鑑賞や動画利用は、1年生 (58%)、2年生 (84.8%)、ゲーム利用についても、1年生、2年生ともに過半数を超えている。また、調べる (情報収集) ことに利用している学生は、1年生 (56.8%)、2年生 (78.3%) に上り、ショッピングに利用している学生も1年生、2年生ともに多い。さらに、2年生においては「予約ツール」として活用している学生が多いこともわかる。[図6]

今回は、項目を細分化して尋ねていないため、2012年度 [1年生：回答者50名中42名 (84%)、2年生：回答者48名中44名 (91.7%)] の学生が選択していた「YouTube」は、「音楽・動画」の中にも含まれていると考えられる。

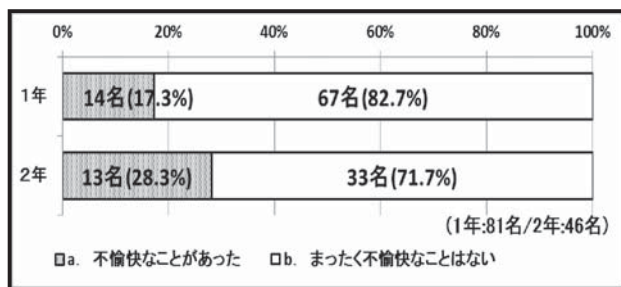
前掲「青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査⁶⁾」によると、大学生のソーシャルメディア利用シーンについて、「就寝前 (56%)」「待ち合わせなどの空き時間 (51.6%)」「休み時間 (47.1%)」「移動中 (42.8%)」「自宅でテレビを見ながら (37.2%)」、また、ソーシャルメディアを利用する最大の理由として、大学生では、「友達や知り合いとのコミュニケーションをとるため」「ひまつぶしのため」「情報収集のため」を上位3項目に挙げている。

前掲「平成24年度青少年のインターネット利用環境実態調査³⁾」では、女子高校生のメール利用が91.1%、「高校生のWEB利用状況の実態把握調査2013」(リクルート進学総研⁷⁾)では、メール利用がスマートフォンで93%、フィーチャーフォンで92.2%に上っているが、本学入学後の現

1年生では、5割の学生に留まっている。さらに、全項目について、2年生の利用状況よりも、1年生は低い割合を示しており、「大学生のLINE 疲れ」⁸⁾「Facebook 利用者減少」が話題となっている現在、学生による携帯電話の利用形態が、1年生では違う傾向を示してきていることも考えられる。今後も、現在の1年生が、2年生のような傾向に変化するのか、あるいは別の方向に変化していくのかについて注目していきたい。

2-7. 携帯電話利用時のトラブル

教養学科1年生14名 (17.3%)、2年生13名 (28.3%) が、携帯電話利用時に、不愉快な経験をしたと回答しており、その内容として、一番多く記述されていた項目が「大量の迷惑メール」である。また、直接ではない場合も、ネット上の他の人に対する批判的な書き込みや、誤解されることなど、「人間関係」の難しい点を自由記述で挙げている学生もいるが、多くの教養学科生は、まったくトラブルを経験していないと答えている。[図7]



[図7: トラブルの経験]

前掲「鹿児島県平成24年度携帯電話・インターネット利用実態調査」²⁾によると、高校3年生で約1割の生徒が携帯電話やインターネット利用上でトラブルを経験し、相手先のわからないメールやチェーンメールなどの迷惑メール、しつこいメールなど、メールのトラブルが非常に高い割合を占めている。

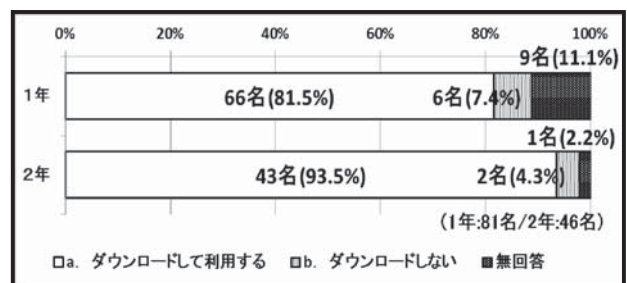
前掲「平成24年度青少年のインターネット利用環境実態調査」³⁾では、女子高校生において、メール関係のトラブルが男子高校生を上回っている一方、トラブルを感じていないのは、男子高校生 (44.2%) が女子高校生 (28.8%) を上回っていることが報告されている。

また、前掲「青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査」⁶⁾では、大学生における「ソーシャルメディア」利用時に悩んだり、負担を感じる項目について、「自分が書いてしまった内容について、後から『あれで良かったか』などと悩む (30%)」「自分の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいものか悩む (26.1%)」「ソーシャルメディア内の人間関係 (19.4%)」「他人の個人情報

やプライベートな事柄をどこまで書いてよいものか悩む (19.4%)」「メッセージを読んだことがわかる機能があること (17.7%)」「自分の書いたメッセージに反応がないこと (17.0%)」などが挙げられており、この調査においても女性の方が男性に比べて、悩んだり、負担を感じる割合が高いと報告されている。

2-8. 携帯電話におけるアプリケーション利用

アプリケーションをダウンロードして利用している学生は、1年生 (81.5%)、2年生 (93.5%) であるが、自由記述によると、その種類は「LINE」「Twitter」を筆頭に、動画、画像、音楽、辞書、カレンダー、時刻表、QRコード読込、翻訳、スケジュール、新聞、ウィルス駆除など、非常に多岐にわたっている。[図8]



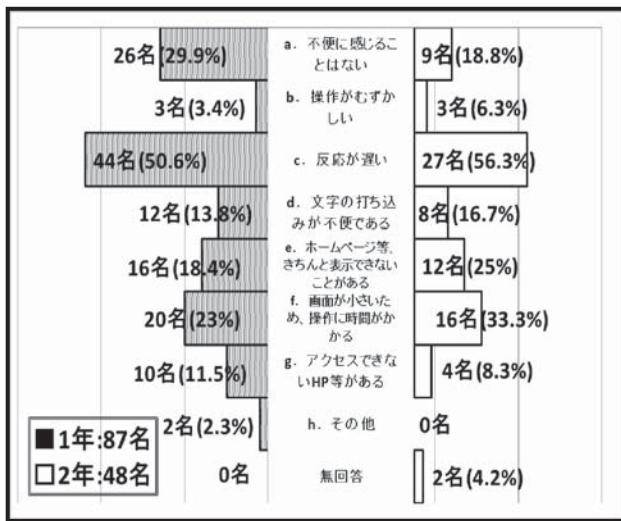
[図8: アプリケーションダウンロード状況]

前掲「青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査」⁶⁾によると、「スマートフォンやフィーチャーフォンで、ほぼ毎日利用するサービス・アプリ (学業での利用を除く)」について、大学生では、「ソーシャルメディアを見る (65.9%)」「ソーシャルメディアに書き込む (43.8%)」「友達とメールする (39.4%)」「ニュースを見る (35.7%)」「ホームページやブログを見る (35.6%)」のサービス利用が上位に挙がり、スマートフォン利用者の方が、全体的にその利用率が高いと報告されている。

2-9. 携帯電話によるインターネット利用時、不便に感じる内容

フィーチャーフォンやスマートフォンを利用してインターネットに接続時、パソコン利用時と比べ、不便に感じていることを尋ねたところ、最も多かったのは「反応が遅い」であり、1年生 (50.6%)、2年生 (56.3%) が挙げている。次は「画面が小さいため、操作に時間がかかる」(1年生: 23%, 2年生: 33.3%) である。「文字の打ち込みが不便である」と答えている学生は、1年生 (13.8%)、2年生 (16.7%) に留まっており、携帯電話の操作に慣れていることがうかがえる。また、1年生 (29.9%)、2年生 (18.8%) は、まったく不便を感じていない。その他の記述には「通

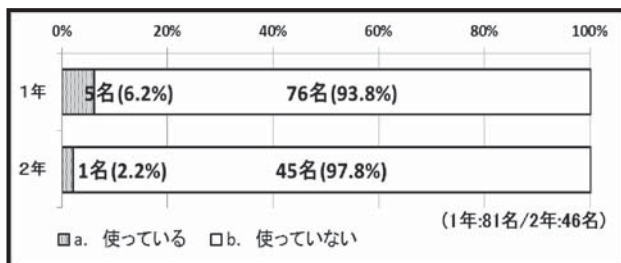
信料を気にしなければならないこと」が挙げられている。
 [図9]



[図9：インターネット利用時に不便なこと（複数回答）]

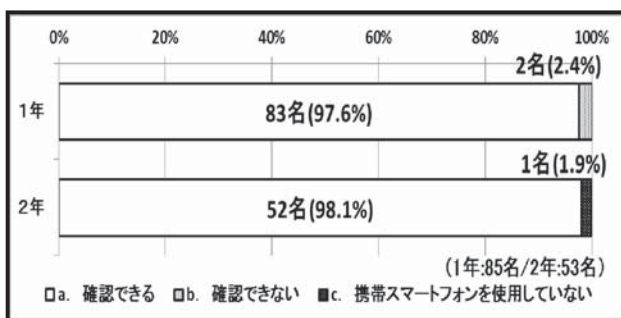
2-10. タブレット利用

教養学科学生は、モバイルパソコンが貸与されていることもあり、現在タブレットを利用している1年生は5名、2年生は1名である。その利用内容については、動画鑑賞、情報収集を挙げているが、スマートフォンが急激に増加したように、今後もその動向が注目される。[図10]



[図10：タブレット利用状況]

2-11. 携帯電話による本学ホームページ確認



[図11：携帯電話による本学ホームページアクセス]

ほとんどの学生が、フィーチャーフォンやスマートフォンを利用して、本学のホームページ確認が出来ており、確認できない学生は、1年生の2名に留まっている。この2名の学生は、ともにフィーチャーフォン使用で、フィルタリングを設定している。また、使用していないと答えている学生はスマートフォン利用の学生で、インターネット接続に利用していない。[図11]

本学からのメール受信についても尋ねているが、調査時、フィーチャーフォン使用で1年生1名、スマートフォン使用で1年生6名、2年生2名が本学における学生支援課、Moodle、いずれからのメールも受信出来ていなかったと答えている。

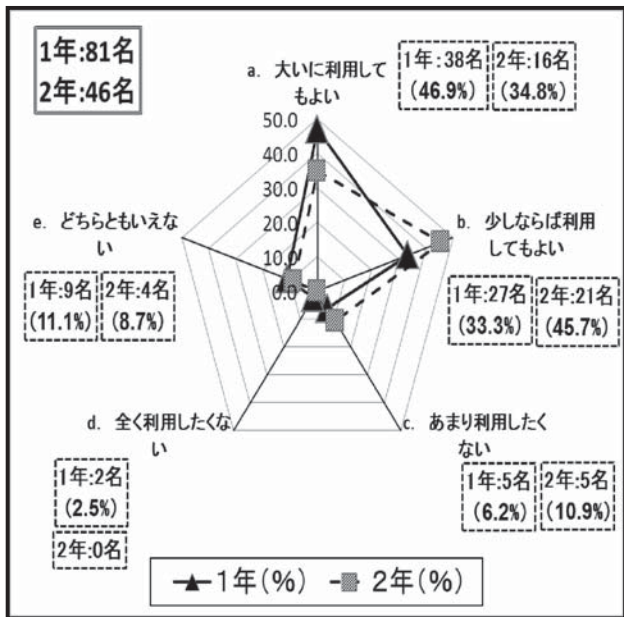
本学からの緊急連絡・お知らせについて、ほとんどの教養学科の学生については、通信障害が考えられる場合を除いて、本学のホームページを確認できると考えられるが、ホームページでの確認は、学生の自主的なアクセスが必要となる。一方、メールは、一斉にお知らせ（連絡）を送信できるが、調査結果の通り、受信出来ない学生の存在がある以上、確実な方法とは言えない。やはり、現在のように、ホームページ掲載、メールの両方のツールを併用することが現状では必要であり、今後、より効果的・効率的な方法を見つけることが望まれる。

2-12. 本学における携帯電話利用

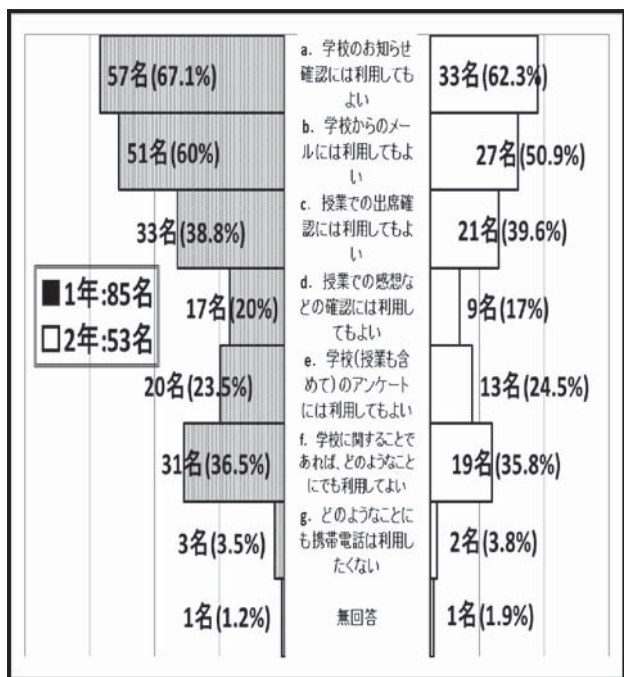
学生は、例年「携帯電話のバッテリー（電池切れ）」を心配し、その利用上の問題として挙げているため、学内で充電ができることを前提として、授業（パソコン演習以外）における携帯電話利用の可否について尋ねている。

「大いに利用してよい」と考えるのは、1年生38名（46.9%）、2年生16名（34.8%）であり、「少しならば利用してもよい」を併せると、1年生、2年生ともに約8割の学生が好意的な回答をよせており、「全く利用したくない」と答えている学生は、1年生2名のみである。[図12]

2011年度、2012年度調査「Moodleにおける携帯電話利用」においても約8割の学生がそれぞれ利用してもよいと答えているが、全員ではない。今回もやはり、100%の学生が携帯電話の利用を認めているとは言えない状況であり、その利用したくない理由は、「充電がやはり心配」「充電を繰り返すとバッテリーの充電機能が落ちる」「面倒」「大学では出来る限り使いたくない」「料金がかかる」「通信状況が気になる」などが、例年通り挙げられている。しかし、2012年度挙がっていた「操作がしにくい」「文字が打ちにくい」などの不安な記述は、今回ごく少数である。これについては、前述の[2-9：利用時の不便なこと]において、操作上の理由が挙げられる割合が少なくなっていることにも、繋がっていると考えられる。



[図12：本学における携帯電話利用]



[図13：本学における携帯電話利用内容（複数回答）]

今回、その利用内容について、詳細に分類して尋ねている。過半数以上の同意を得られた項目は1年生、2年生ともに「学校からのお知らせ確認に利用」（1年生67.1%，2年生62.3%）「学校からのメールに利用」（1年生60%，2年生50.9%）の2項目のみであるが、「学校に関することはどのようなことでも利用してよい」と答えている学生が、1年生、2年生ともに3割を超えている。[図13]

「どのようなことにも利用してよい」と答えている学生の自由記述には、「携帯だと便利」「確認しやすく、気づ

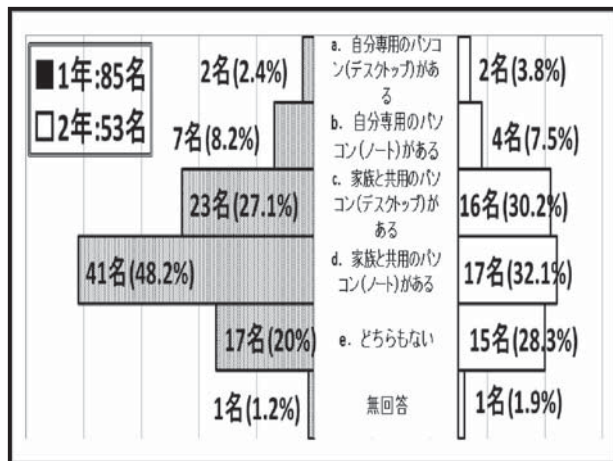
きやすい」「掲示板での確認より確実に便利」「メール連絡はありがたい」「パソコン利用よりも便利」などの好意的な意見が多く、特に例年「メール連絡」を感謝する学生が多い。その一方、過度の利用を危惧する意見や、掲示板との併用・充実を望む意見も見られる。「いつもアクセスして確認している」と記述している学生もあるが、実際に、本学「Moodle」アクセスログでも、教養学科学生のみならず、他学科の学生においても、毎日のように「お知らせ」を確認している学生が見受けられる。「どのようなことにも携帯電話を利用したくない」と答えている学生は、1年生3名、2年生2名のみであり、その理由として「面倒である」「携帯電話をあまり利用したくない」などが挙げられている。

3. 学生のパソコン利用状況について

自宅でのパソコン並びに貸与モバイルパソコン利用内容等について尋ねている。

3-1. 自宅におけるパソコン所有状況

調査時に、自分専用のパソコン（デスクトップ、ノートパソコン）を所有している学生は、1年生9名（10.6%）、2年生6名（11.3%）と少数である。家族との共用パソコン（デスクトップ、ノートパソコン）がある学生は、1年生64名（75.3%）、2年生33名（62.3%）であり、全く所有していない学生が、1年生17名（20%）、2年生15名（28.3%）である。[図14]

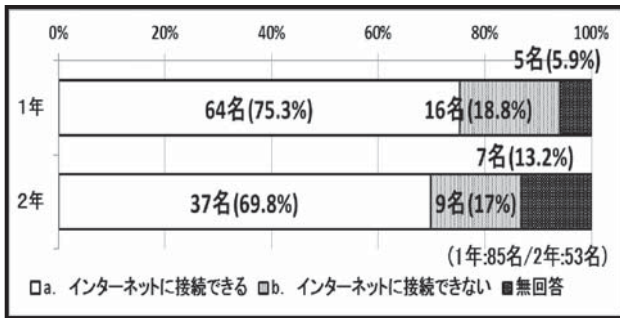


[図14：自宅におけるパソコン所有状況（複数回答）]

前掲「平成24年度青少年のインターネット利用環境実態調査」³⁾において、学校種別では、高学歴になるほど、「自分専用のパソコン」を使用している割合は高くなり、男子高校生（18.9%）が女子高校生（12.1%）よりも使用率が上回っている。

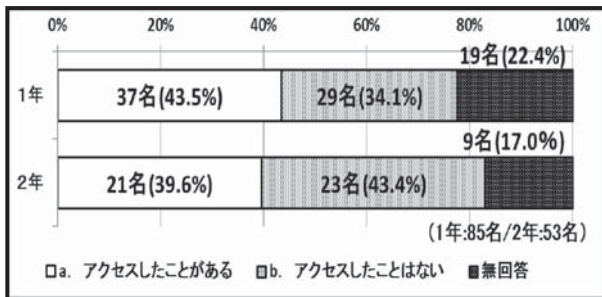
3-2. 自宅におけるインターネット接続状況

1年生64名(75.3%)、2年生37名(69.8%)の学生が、自宅においてもインターネット利用が可能である。2012年度調査時においても、1年生(74%)、2年生(77.1%)の学生がインターネットにアクセス可能であった。[図15]



[図15: 自宅におけるインターネット接続状況]

3-3. 自宅におけるパソコンを利用した本学「Moodle」へのアクセス状況

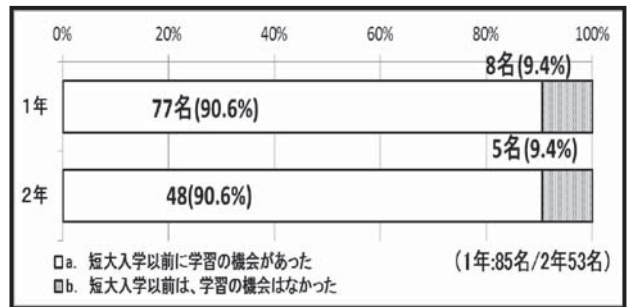


[図16: 自宅から本学 Moodle へのアクセス状況]

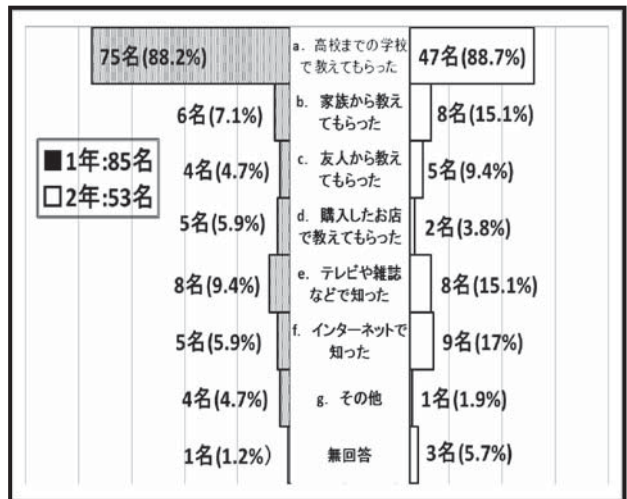
1年生37名(43.5%)、2年生21名(39.6%)が、自宅から本学の「Moodle」にアクセスしたことがあると答えている。[2-12: 本学における携帯電話利用]で述べたように、アクセスログを確認すると、携帯電話からのみならず、学外からパソコンで「Moodle」にアクセス、「お知らせ」や「演習コース(課題や提出日)」を確認している学生がいる。また、少数ではあるが、学外からのパソコンでアクセスして、課題を提出したり、検定試験前には、演習時に利用している「Moodle」上で計測し、結果・感想を日誌に記録する速度練習を実行している学生もいる。[図16]

3-4. インターネット利用に関するマナー(情報モラル)の学習について

インターネット利用のマナーや情報セキュリティに関する「情報モラル」を、本学入学以前に学習している学生は、1年生77名(90.6%)、2年生48名(90.6%)であり、ほとんどの学生が本学入学以前に学習の機会を得ていることがわかる。[図17]



[図17: 情報モラルの学習時期]



[図18: 情報モラルの学習状況(複数回答)]

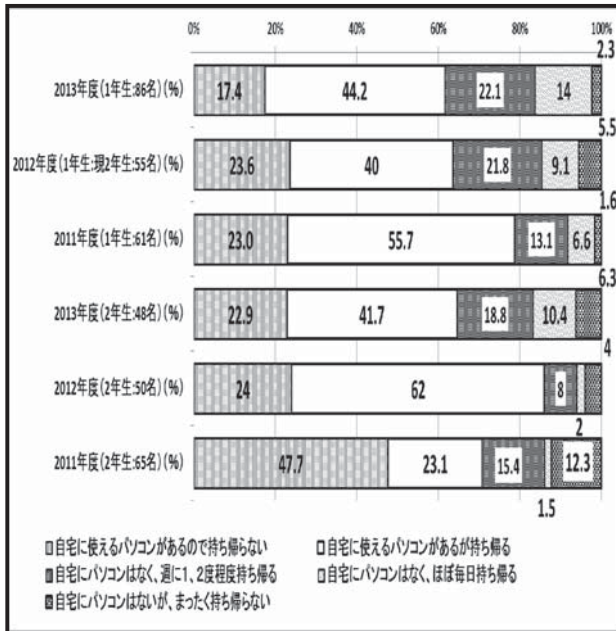
その学習機会について尋ねると、1年生、2年生ともに、約9割近くの学生が、高校までの学校で学習していることがわかり、文部科学省「教育の情報化ビジョン」(平成23年)⁹⁾における「情報モラル教育の充実」の成果にも結びついていると考えられる。[図18]

前掲「鹿児島県平成24年度携帯電話・インターネット利用実態調査」²⁾によると、平成24年9月調査時では、[小学校(44.4%) / 中学校(63.4%) / 高校(74%)]の生徒が、学習の機会があったと答えており、高校3年生では、約7割が携帯電話やインターネットを利用する際の注意について、説明をされたことがあると報告している。また、その学習の機会は、「学校(89.8%)」「家族(18.3%)」「友達(9.5%)」「購入したお店(19.1%)」「テレビや雑誌(16.4%)」「インターネット(10.5%)」と報告されている。

前掲「平成24年度青少年のインターネット利用環境実態調査」³⁾でも、女子高校生の学習機会について、「学校(93.7%)」「テレビや本・パンフレットなどで知った(27.2%)」「親(保護者)から教えてもらった(22.2%)」「友達から教えてもらった(15.1%)」「インターネットで知った(11.7%)」「携帯電話を買ったときに店員に説明してもらった(10.5%)」と報告されている。

3-5. 貸与モバイルパソコンの持ち帰り状況

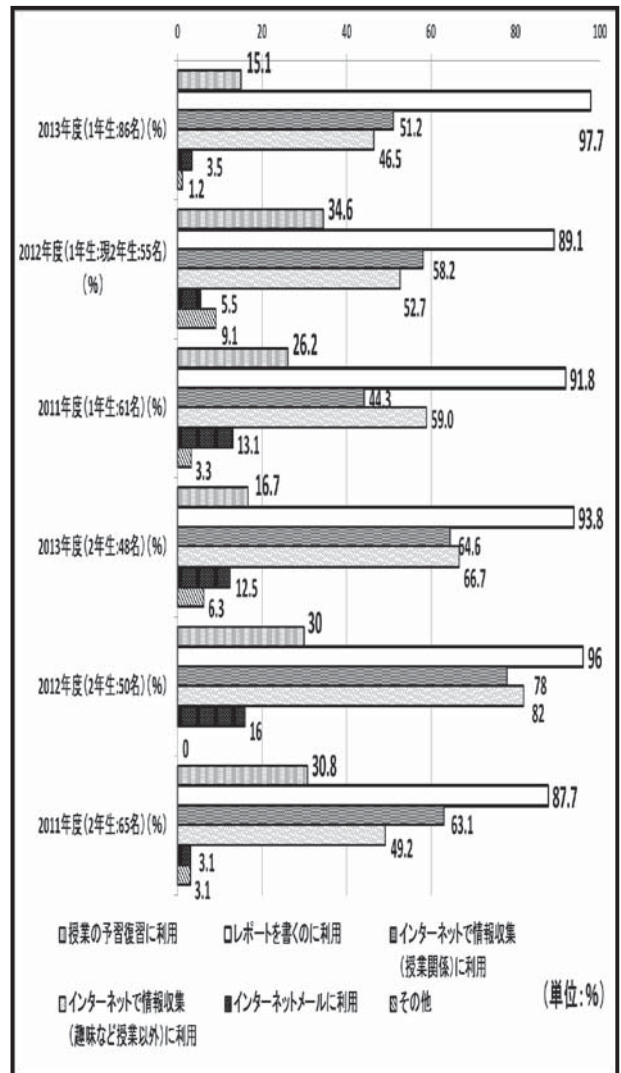
2013年度は、自宅に使えるパソコンがある場合にも持ち帰る学生は、[1年：回答86名中38名 (44.2%)，2年：回答48名中20名 (41.7%)]である。自宅にパソコンがない場合でも持ち帰らない学生は、1年生では2名，2年生では3名であった。[図19]



[図19：貸与モバイルパソコンの持ち帰り状況]

3-6. 貸与モバイルパソコンの利用内容

教養学科ではレポートを書く機会が多いため、例年同様に、1年生，2年生ともに「レポートに利用」が一番多く選択されており，2013年度の自由記述でも，「専用なので自由に使える」「いつでもどこでも場所を選ばない」「レポートや検定練習ができる」「企業研究ができる」など，感謝の言葉とパソコンスキルアップを述べている。1年生と2年生の相違は，やはり，モバイルパソコンのサイズと重さの相違で，現2年生には記述される「重い」の言葉が，軽量でコンパクトサイズの現1年生の記述には，まったく記載されていないことである。[図20]



[図20：貸与モバイルパソコンの利用用途 (複数回答)]

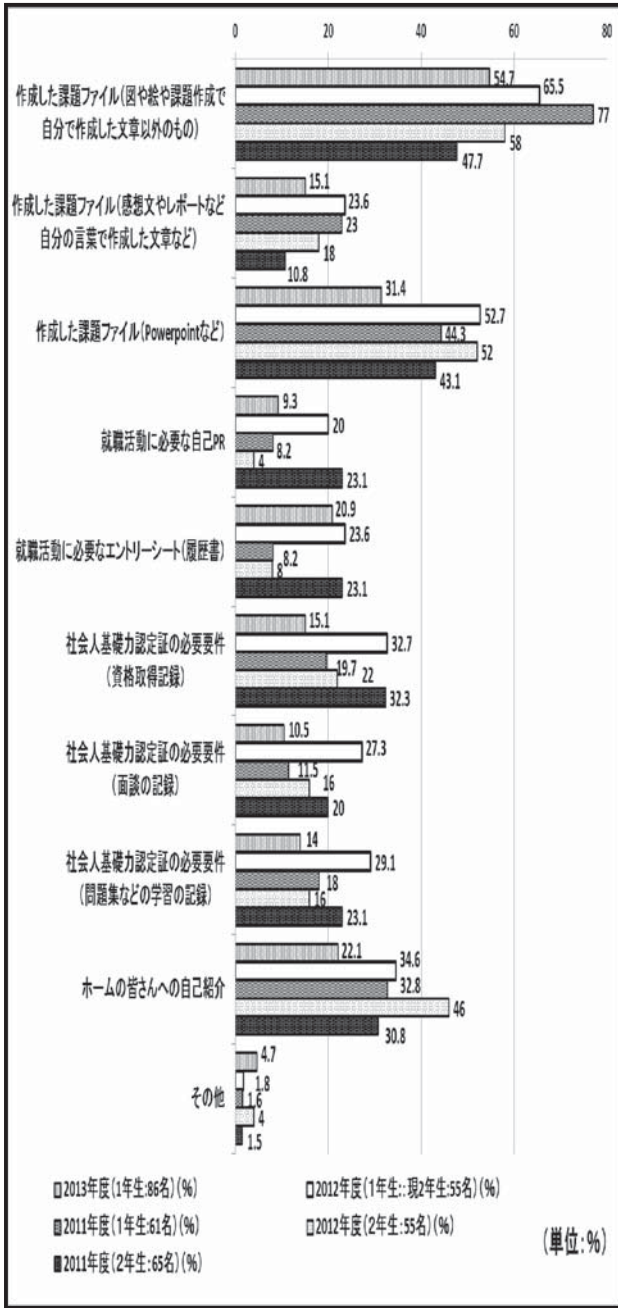
4. 公開することについて

これからは，パソコンだけではなく，スマートフォンを利用した「e-Portfolio」も考えられる。筆者演習では，作品を他者へ公開し，相互評価する演習も行っているため，それに関連して，2013年度調査においても，公開 (共有) を認められる内容・対象者について尋ねている。

現1年生は，例年と比較しても，消去的な傾向がうかがえ，「学生同士」が若干例年を上回るが，各項目の選択割合は低い。[図21・22]

筆者演習内での学生同士の意見交換や作品公開などの共有時におけるアンケート結果では，「まったく他の人に公開したくない」を選択している学生は少ない [1年生0名，2年生1名] が，自由記述では，「やはり公開したくない」と記述している学生も多く，氏名非公開を希望する学生も見受けられる。[図23]

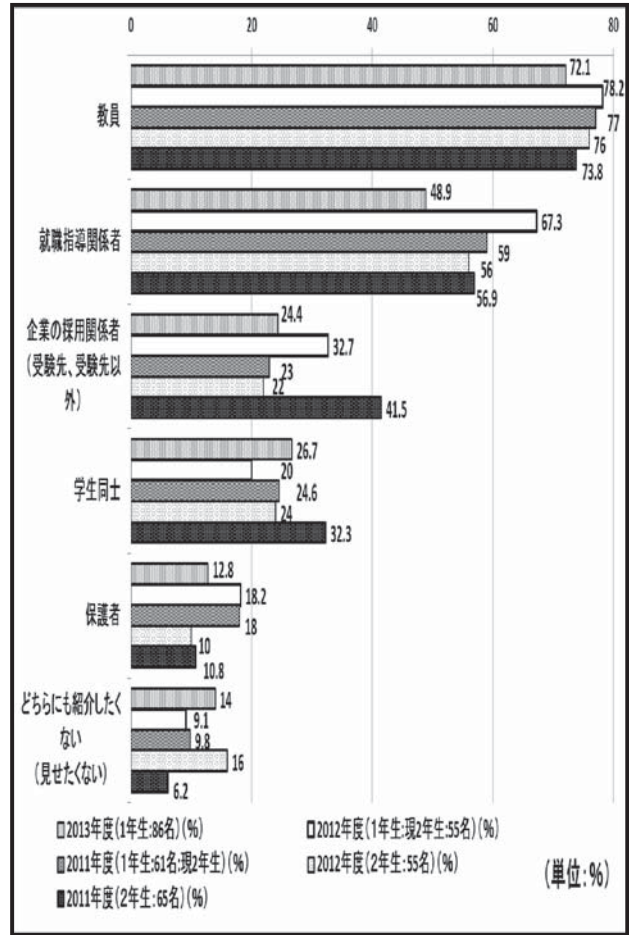
スケジュールの共有や報告書の共有を経験している教養



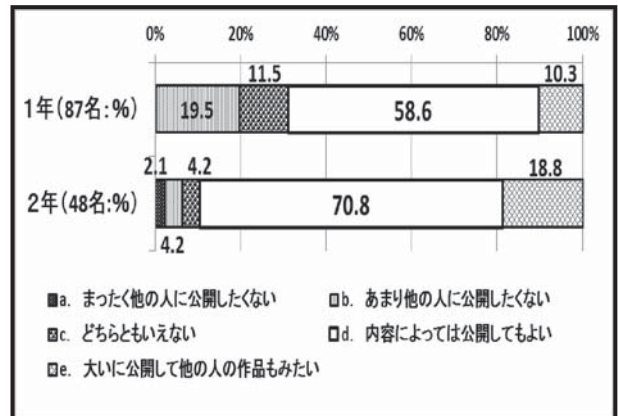
【図21：紹介や公開を認める項目について（複数回答）】

学科学生であり、共有（公開）の必要性や活用を理解しているとはいえ、自分自身の記述を公開することをためらう学生は例年多い。

教員には約7割－8割の学生が「公開してよい」としているが、学生同士では、約2割－3割と低くなっている。「e-Portfolio」利用時には、学生自身のみが参照可能な「e-Portfolio」ではない場合、公開（共有）における項目・対象の選択が必要となってくるかもしれない。



【図22：紹介や公開を認める相手について（複数回答）】

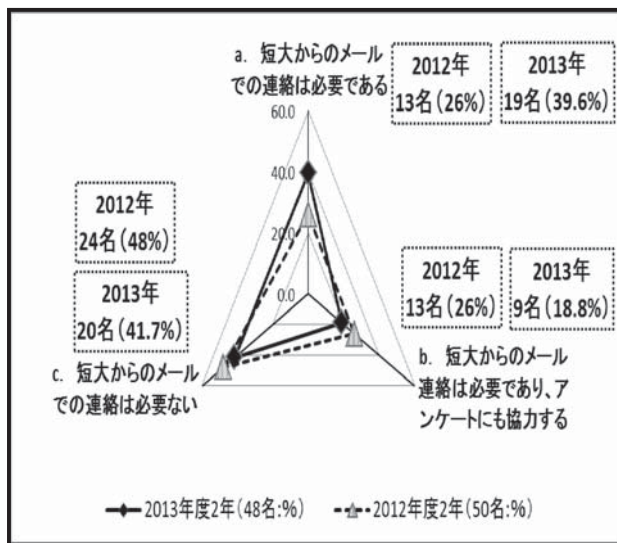


【図23：演習内における他者への公開について】

5. 卒業後の連絡について（Moodle，メール）

携帯電話利用に関連して、2013年度も、卒業をひかえている教養学科2年生に対する「卒業後の本学（Moodle）からのメール連絡、アクセス」についての調査を行っている。本学からの連絡を必要としている学生は、2012年度52%、2013年度58.3%の学生であり、教養学科2年生の過半数にとどまっている。例年、多くの卒業生が、卒業後にはメー

メールアドレス登録変更を行っていない。[図24]



[図24: 卒業後の本学からのメール等について]

6. おわりに

[2-4: 携帯電話利用時間]でも記述したように、携帯電話利用が「生活時間に変化」を及ぼしていることから、前掲「青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査」⁶⁾によると、「ネットを利用することによる日常生活への影響の自己分析」について、39.5%の大学生が「自分はネット依存だと思う」と答えており、潜在的なユーザーを加えるとより多く、また、スマートフォン利用者の方が高い傾向を示していると報告されている。

スマートフォンについては、その増加が落ち着く傾向にあることや一般の携帯電話の根強い人気なども報告されるとともに、さらに、新しいサービスが登場する可能性も示唆されるなど、PCとともに、フィーチャーフォン、スマートフォン、タブレットなどのモバイル情報端末の動向¹⁰⁾に注目するとともに、メガネ型や腕時計型などのウェアラブル情報端末¹¹⁾も、モバイル端末と同様に増えることが予想されているため、多様化・複雑化する学生の利用機器への対応が必要になることも考えられる。

教養学科1年生、2年生について、携帯電話、所有・貸与パソコンを中心に、その利用方法・内容、ネットサービス利用について、本学調査をベースに、外部機関による調査との比較を行ってきた。特に、在学生在が、高校生時代に調査された結果と比較することにより、その変化も併せて考えていくこととしたが、本学でのスマートフォンやタブレット端末利用では、貸与されたものでない限り、学生の自主的な利用が必要となってくる。メール、ソーシャルネットワークやゲームなど、ネットサービス等を多くの学生が利用しているが、同じように、本学に関する内容においても、自主的な学生利用を促す方法が必要である。

教養学科学生は、前述したように、携帯電話を利用することに、例年好意的な学生が多く、またメール連絡・お知らせに感謝している学生も多いため、LMS (Moodle)、e-Portfolio、e-learning (事前事後学習)、さらに、その他システムでの利用や普通教室におけるICT活用の情報端末として積極的な活用を促すためにも、携帯電話利用に関する環境面とともに、学生がその利便性や効果を十分認め、積極的に参加していく内容と設定がこれから必要になると考えられる。

参考にさせていただいた各アンケート実施調査機関の皆様は厚く御礼を申し上げますとともに、アンケートに協力してくれた教養学科学生の皆さんに深く感謝します。

【参考文献・参考URL】

- 1) 戦略的大学連携支援事業「eラーニング支援サービス」(ICT活用推進委員会)(2010)、「～鹿児島はひとつのキャンパス～」(2010年度版ハンドブック)
- 2) 鹿児島県教育庁義務教育課・高校教育課(2012)、「平成24年度「携帯電話・インターネット利用実態調査」結果」
[URL] http://www.pref.kagoshima.jp/ba04/kyoiku-bunka/school/shidou/documents/29073_20121225095551-1.pdf
- 3) 内閣府(平成25年3月)、「平成24年度青少年のインターネット利用環境実態調査」
[URL] <http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h24/net-jittai/pdf-index.html>
- 4) KDDI用語集 [URL] <http://www.kddi.com/yogo/>
- 5) 総務省電気通信消費者情報コーナー
[URL] http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/d_syohi/filtering.html
- 6) 総務省情報通信政策研究所(平成25年6月)、「青少年のインターネット利用と依存傾向に関する調査—調査結果報告書—」
[URL] <http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/data/research/survey/telecom/2013/internet-addiction.pdf>
- 7) リクルート進学総研(2013年)、「高校生のWEB利用状況の実態把握調査2013」
[URL] <http://souken.shingakunet.com/research/2011/08/post-df21.html>
- 8) YOMIURI ONLINE/読売新聞(2013年6月)、「LINE『既読問題』と大学生のLINE疲れ」
[URL] <http://www.yomiuri.co.jp/net/security/goshinjyutsu/20130628-OYT8T00970.htm>
- 9) 文部科学省(平成23年4月)、「教育の情報化ビジョン～21世紀にふさわしい学びと学校の創造を目指して～」
[URL] http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/04/afieldfile/2011/04/28/1305484_01_1.pdf
- 10) (株)MM総研 [東京・港]・「スマートフォン市場規模の推移・予測(2013年10月)」

- [URL] <http://www.m2ri.jp/newsreleases/main.php?id=010120131009500>
- ・「2013年度上期国内携帯電話端末出荷概況（2013年10月）」
 - [URL] <http://www.m2ri.jp/newsreleases/main.php?id=010120131031500>
 - ・「2013年度上期国内タブレット端末出荷概況（2013年10月）」
 - [URL] <http://www.m2ri.jp/newsreleases/main.php?id=010120131107500>
 - ・「2013年度上期国内パソコン出荷概要（2013年11月）」
 - [URL] <http://www.m2ri.jp/newsreleases/main.php?id=010120131113500>
- 11) 産経 biz/産経新聞（2013年8月），
「スマホの次はウェアラブル端末？メガネ型，腕時計型
…国内外で開発競争激化」
- [URL] <http://www.sankeibiz.jp/business/news/130805/bsj1308050657005-n1.htm>
- 12) 総務省（平成25年），「平成25年度版情報通信白書」
- [URL] <http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h25/pdf/index.html>
- 13) 総務省総合通信基盤局消費者行政課（平成25年9月），
「平成25年度青少年のインターネット・リテラシー指標等」
- [URL] http://www.soumu.go.jp/main_content/000247066.pdf
- 14) 齋藤長行，吉田智彦著（2013年3月），
総務省情報通信政策研究所「青少年のスマートフォン利用環境整備のための政策的課題－実証データから導かれる政策的課題の検討－」
- [URL] http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/data/research/icp_review/06/saitou2013.pdf
- 15) マイナビ（2012年1月），
「2013年卒マイナビ大学生のライフスタイル調査
（携帯・スマートフォン・SNS等の利用状況について）」
- [URL] http://saponet.mynavi.jp/mynavienq/data/mynavienq_20120124.pdf

（2013年12月2日 受理）